

「保育内容の指導・研究（音楽表現）」の授業を紹介します。

教授 角藤智津子

子ども支援学専攻では、子どもに関係するさまざまなことを勉強します。その中で、保育所や幼稚園での音楽に係る具体的な「保育内容」について学ぶのが、「保育内容の指導・研究（音楽表現）」です。2012年度は3年生に対して開講されており、学生自身が音楽表現を行えるようになることと、学生が子どもたちの音楽表現を援助できるようになること



の2つが、授業の目標です。

左の写真は、実は全部が楽器です。これらも学生が学ぶ保育教材の一つです。中に小さな粒状のものがたくさん入っており、振るだけで音が出ます。これらは、子どもたちがなじみやすいフルーツなどの形にした、音を楽しんでもらおうと作られた楽器です。楽器でメロディーを

奏するのは乳幼児にはなかなか難しいことですが、振ったり叩いたりするだけで音が出るこれらの楽器は、音楽の入門期に使用するのにはぴったりです。

「保育内容の指導・研究（音楽表現）」の15回の授業の後半の数回では、子どもたちに見てもらうことを想定して音楽劇を作り、グループごとに発表を行ないました。下の写真のグループは、グリム童話で有名な「7ひきの子ヤギ」のストーリーを取り上げました。劇のねらい、取り入れる音楽、配役、大道具、小道具を考え、仕事を手分けして行ないながら制作しました。皆の頭には、布で作った手作りのかわいい耳が付いています。7ひきの子ヤギ、お母さんヤギ、オオカミが勢ぞろいしての記念写真です。

オオカミがヤギの家のドアをたたく音は、ピアノの鍵盤を2回鳴らすことで表現しました。ピアノは、まるで打楽器のような音がしました。音色、音の高さに工夫を凝らした成果です。フィナーレでは、「WAになっておどろう」（長万部太郎作詞・作曲）を、7ひきの子ヤギ、おかあさんヤギにオオカミも加わって、元気に華やか



かにうたいながら踊りました。話の最後は、「みんなで仲よく」を意図したということで、一般的な「7ひきの子ヤギ」の結末とは異なるように自分たちで変えてみました。

「保育内容の指導・研究（音楽表現）」は音楽を主とした授業ですが、音楽劇の制作には、いろいろな授業で学んだ、幼児教育・保育の知識が活かされていることが分かります。